


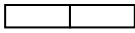
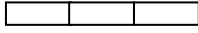
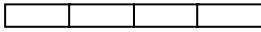
本時の振り返り

1 第3学年『倍の計算』（4／4）

2 本時の概要

ある数が「基にする大きさ」の何倍かを求める場合には、除法が用いられることを理解し、図と式を用いて考えを説明し、答えを求める学習である。教科書では、2時間扱いだったが、今回は4時間をかけ指導した。3時間めの前時に、問題場面「つな引きのロープの長さは、ひなん用のロープの長さの何倍ですか。」を把握し、自力解決でワークシートに図と式で表し、本時は集団検討から始められるようにした。

①

	1つ分は 9m
	2つ分は 18m
	3つ分は 27m
	4つ分は 36m

4つ分は4倍だから 答え 4倍

②

36m			
9m	9m	9m	9m

9が4つ分で36mになる。
 $9 \times 4 = 36$ 答え 4倍

③

36m			
9m			

「1つ分の長さ×いくつ分=全体の長さ」
いくつ分を求めればよい。
式 $9 \times \square = 36$ 答え 4倍

④

36m			

9m

36mの中に9mがいくつあるのかを求めればよいから、わり算を使った。
式 $36 \div 9 = 4$ 答え 4倍

問題を把握し、図と式をかく段階で、子どもはいろいろな考えを出した。そして、自分のかいた図と似ている考えはどれか。」について意思表示をさせた。「36mの中に9mがいくつ分あるのか。」「何倍かを求めるときは、わり算をつかう。」とまとめた。

あてはめ問題は、 $21 \div 7 = 3$ 答え 3倍 となる問題である。若干名を除き、正答した。はじめにかけ算を用い「 $7 \times \square = 21$ 」、次に□を求めるために「 $21 \div 7 = 3$ 」と立式している子ども6名、「21の中に7がいくつ分あるのか」を考え、はじめからわり算を用いている子ども10名。立式せずに、①のようなテープ図の操作で解答した子ども1名。解答できなかった子ども1名。立式できなかった2名については、授業後にテープ図を再度操作させながら、わり算を用いることを個別指導した。

3 実践の振り返り

子どもの発言「1つ分の長さ×いくつ分=全体の長さ」を生かし、□を用いるかけ算の式「 $9 \times \square = 36$ 」から□を求めるためには「 $36 \div 9 = 4$ 」の式になることをしっかり確認しなかったなど、発表内容の価値付けが不十分だった面が残った。

「何倍かを求めるには、わり算を使う。」ことを、子どもにしっかりと理解させるためには、□(何倍か)を求めるわり算の式「 $36 \div 9 = 4$ 」、同様に、あてはめ問題では「 $21 \div 7 = 3$ 」を明記しなければな

らなかった。

本時のねらい「どんな式になるか考えよう。」が明確でなかった。子どもは、「何倍かを求めればよい。」と答えのことばかりを意識し、「何倍かを求めるには、わり算を使う。」と考えを深めることができなかった。わり算を使うことよき、価値付けを、③、④の子どもの反応を用いてまとめることができるとよかった。

4 協議内容

●よかった点

- ・全員が自分の考えをもった上でワークシートにかいて参加できていた。これは、単元指導時間を2時間から倍の4時間にしている効果が出たと予想される。

●改善点

- ・発表内容の価値付けが不十分だった。
- ・わり算を使うよきを確認しないとずっと□を使ったかけ算の式を使い続ける。
- ・子どもが言葉で説明することの難しさを感じた。書いている内容と、発表内容に差があった。また、発表をしている時の声が小さく聞き取るのが難しかった。普段から訓練する必要がある。
- ・子どもの説明の言葉を使ってまとめに入っていくとよい。

5 講師講評

〈講評〉千々布 敏弥 先生

- ・わり算を用いることよきが明確にならなかった。
- ・先生が子どもたちのつぶやきを進んで取りあげ、授業に生かすことが大切である（教師に都合のよいつぶやきだけを取りあげるのではない）。

〈講評〉笠井 健一 先生

- ・本時で一番考えなければならなかった課題とは何だったか。この場面ではどんな考え方をするのか、そこを焦点化しなければならなかった。今日の授業は、ねらいが明確になって子どもの中に入っていなかった。指導案の中に子どもが実際に考え、取り組むべき内容の教師の言葉かけが書かれているとよかった。こうすることで、教師自身が子どもの姿を通し、授業のねらいを明確にすることができる。この言葉かけにそって、他者は発表した子どもの反応を見取り、考え、反応を返していくことになる。
- ・「どのような式になるのか」に焦点化し、話し合いをさせたい。

かけ算 3つ分の大きさを求める時、3倍の大きさを求める時。

わり算 等しく分けて一人分を求める時、何人に分けられるかを求める時、

何倍かを求める時。(本時)

- ・子どもがどのような考えをもって図をかいたのかを大切にする。そして、なぜわり算でよいのかをまとめる。

